

センターだより

第54号

令和元年7月19日 発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター

〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

プロジェクト研究の紹介

当センターでは、義務教育課・高校教育課・産業教育課・特別支援教育課・教育相談課の五課の所員が課を超えて、プロジェクト研究を行っています。研究テーマは本県の教育課題の解決を意識したものを設定しています。

なお、11月15日(金)、16日(土)に当センターで行われる「あおもり教育フェスタ2019」の際に、研究成果の発表や作成した資料の提供を行う予定です。



授業力向上プロジェクト



【テーマ名】

児童・生徒の学習意欲を高める課題設定の在り方

【研究内容】

サブテーマを「社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動にするために」とし、1つのテーマから、各校種、各教科で課題を設定し、学習を通して得られた資質・能力が、将来どのように生かされるのか提案します。

また、具体的な教材、指導例の提示については、以下の6点のいずれかとの関連を図ります。

- | | |
|------------|----------------|
| ①キャリア教育の充実 | ②生きる力の育成 |
| ③資質・能力の育成 | ④豊かな心や健やかな体の育成 |
| ⑤環境教育の推進 | ⑥国際化に対する教育の推進 |

インクルーシブ教育システムプロジェクト



【テーマ名】

気になる児童生徒が在籍するクラスの授業づくりについて

【研究内容】

本プロジェクトは3年目です。過去2年間は通常の学級の先生方を対象に、気になる児童生徒に対する取組、取り組んでみての課題等についてのアンケート調査を実施し、整理した課題をもとに解決するためのアイデアをまとめた小冊子等を作成しました。今年度は、整理した課題から、先生方の最も身近な場である「授業」に焦点をあてます。授業を組み立てる上で、個別対応だけでなく、授業全体をどのように考えていけば良いのか具体的なアイデアを整理し、提案する予定です。

マネジメントプロジェクト



【テーマ名】

カリキュラム・マネジメント

【研究内容】

カリキュラム・マネジメントの充実による学校教育目標の実現を目指し、理論研究と演習を行います。

具体的には、各校種ごとにモデルとなる学校を設定し、その学校の児童生徒の実態を想定しながら学校教育目標を設定します。学校教育目標の実現を目指して単元配列を考えますが、各校種の実態を考慮し、総合的な学習（探究）の時間との関連を重視しながら演習を進めます。

学級・ホームルーム経営プロジェクト



【テーマ名】

児童生徒が、うきうきワクワクできる学級（ホームルーム）・居場所づくり

【研究内容】

いじめ・不登校は、教育現場における喫緊の課題です。学級は児童生徒にとって、安心できる居場所であり、毎日の学校生活を楽しく過ごす基盤であって欲しいと思います。

そこで、昨年度の成果物「学級開きや普段のホームルーム活動で使えるグループアプローチ」や新しい対人関係ゲーム等を研究し、研修講座や校内研修等講師派遣事業等において、学校現場に還元します。また、あおもり教育フェスタでも発表を行います。

情報教育プロジェクト



【テーマ名】

授業でのICT活用とプログラミング教育についての研究

【研究内容】

授業でのICT活用とプログラミング教育を2つの班に分けて研究しています。

ICT班は、当センターで導入している電子黒板、タブレット、授業支援ソフトウェアなどを活用し、児童・生徒の学力向上につながる使い方を研究しています。

プログラミング教育班は、来年度から小学校に導入されるプログラミング教育について、どのように取り組んでいったら良いのかを中心に、ソサエティ5.0社会を見据えた導入ができるよう研究しています。

2年目研究員の研究紹介

学校現場で活用できる研究成果をモットーに日々研究に励んでいます！

古澤 順子 研究員



【テーマ名】

中学校国語科の文学的文章の学習において、自立した読みができる生徒を育成する指導法の研究 ―型を用いた「問いづくり」と既習を生かした「問いの追究」を通して―

【研究内容】

全国学力・学習状況調査では、毎年のように、文章を読んでそれに対する自分の考えを記述させる問題が出題されています。複数の「正解」が存在する問いに挑んでいけるよう、「自分の考えをもつ力」を高めたいと考えました。それには、身に付けた読みの力を生徒自身が試す場が必要であり、生徒一人一人が「問い」をもつことが有効ではないかと考え、質問・疑問マトリクスを活用した問いづくりを通して、生徒が自分自身の問いを設定し、問いの答えを求める中で、既習を生かして読み深める授業を構想しました。これまで学び方を明確に生徒へ示していなかった自分自身の反省から、文学的文章を扱いました。検証授業を終え、生徒からは「読むこと・考えをもつこと・自分の考えをもち他者と議論することはおもしろい」、「付けた力を他にも生かしていけそうだ」という感想が寄せられています。

西塚 満幸 研究員



【テーマ名】

小学校体育科マット運動におけるICTを活用した効果的な指導法の研究 ―側方倒立回転の実践を通して―

【研究内容】

新学習指導要領では、これまで以上に児童に「運動の知識」を習得させることが重視されており、「わかる」と「できる」ことを関連付けた系統的な指導を行うことが求められています。そこで私は、二つの手立てを用いたマット運動の授業実践の研究をしています。一つは、ウェアラブルカメラで撮影した運動者目線の映像を用いて運動のイメージをより明確にさせることです。もう一つは、タブレットPCを用いて児童一人一人の課題に合った練習に取り組ませることです。

研究1年目は用意した映像資料が児童にとって適切なものだったかということについて検証しました。今年度は改良した映像資料を用いて、児童が学習場面において、どのようにタブレットPCを活用することが効果的なのかということについて検証します。

長内 武 研究員



【テーマ名】

多様な学習スタイルの生徒が在籍する中学校の通常の学級において学習意欲を高める指導の在り方 ―授業のユニバーサルデザインを通して―

【研究内容】

小学校の授業に比べて、学習内容が増加する中学校の授業では、教師の説明する時間が増え、振り返りの時間も十分に確保されていない傾向にあります。その結果、生徒が受け身的になり、理解が不十分なまま授業が進むことが予想されます。

そこで、授業のなかで生徒に気付かせたい内容を焦点化し、授業の山場に向けて、視覚化、共有化による支援を工夫します。個人思考の場面では、生徒のつまづきを予想し、ヒントの出し方を工夫します。

このように、授業にユニバーサルデザインの視点を取り入れ、多様な生徒にわかりやすい授業を展開することで、より多くの生徒が「できた・わかった」と実感することができ、学習意欲の向上につながるのではないかと考えています。

井澤 ゆう子 研究員



【テーマ名】

幼保小連携における教職員間の関係構築に関する研究

【研究内容】

文部科学省では、幼児期の教育と小学校教育の接続を円滑に進めることは、児童のより良い小学校生活のスタートや、小1プロブレムの発生防止につながることを指摘しています。また、先行研究において、幼小接続を円滑に進めるための基盤は、児童理解であることを示しています。

そこで、幼保小の教職員同士が、それぞれの立場から意見を忌憚なく言い合える関係を構築することができれば、互いの教育についての理解や児童理解につながり、結果として、児童が小学校という新しい環境にうまく適応していくことができるのではないかと考えました。

そのために、幼保小の教職員を対象とした教職員間の関係を構築するプログラムを作成し、実践することを通して、幼保小の教職員間の関係が構築されることを明らかにしたいと考えています。

～ その他4名の2年目研究員の研究については、テーマのみご紹介します ～

松坂知広研究員 理科の観察・実験において、探求の過程を精緻化することで考察を導出させる指導法の研究

佐々木智里研究員... 小学校算数科「図形」領域において、統合的・発展的に考察する力を育てる指導法の研究 ―「つなげる広げるシート」の活用を通して―

吉田理研究員 小学校4年生の援助要請スキルを育むための指導の研究 ―援助要請スキル向上プログラムの構築・実施を通して―

橋美那子研究員 中学校における保護者と教師の信頼関係構築に関する研究



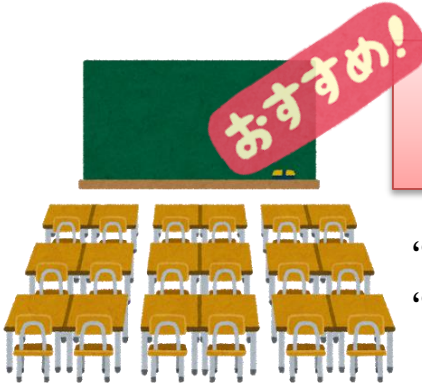
特色ある講座の紹介

講座番号
D18

通常の学級のユニバーサルデザイン研修講座

特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の対応について、学校または学級全体で取り組む方法や考え方をユニバーサルデザインの視点から学びます！

10.17 (木)



「通常の学級における教育のユニバーサルデザイン」

講師：星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 氏

“発達障害の子どもには「ないと困る」支援”
“どの子にも「あると便利な」支援” 申込×切
について一緒に考えましょう。

9.19 (木)

あおもり教育フェスタ2019の紹介

と き

令和元年11月15日 (金)

令和元年11月16日 (土)

ところ

青森県総合学校教育センター

学校事情に合わせて、参加いただけるよう平日・休日開催を計画しております。どちらか一日でも、ご参加くださると幸いです。

【講演会：11月16日 (土) 9:30～12:30の予定】



講師：日本大学文理学部
教授 藤平 敦 先生

演題：「魅力ある学校づくりのために
～学校の主役は一人一人の子どもたち～」(仮)

平成22年度からの「魅力ある学校づくり調査研究事業」の指定校の実践紹介から、「うまくいっている学校」は何が違うのかを考えます。教職員一人一人の力を集結した「チーム学校」を目指し、広く、学校現場が元気になるような、学校づくりのちょっとしたコツなど紹介してもらいます。

= 予定している主な内容 =

<15日 (金)>

- ☆ 幼、小・中、高等学校、特別支援学校からの発表
青森山田こども園、黒石市立黒石小学校、鰺ヶ沢高校、青森高校、青森第二高等養護学校での取組の様子を紹介します。
- ☆ 研究員研究発表
当センター2年目研究員による研究の発表です。
- <16日 (土)>
- ☆ 講演会
本県の学校教育課題に関して、その解決のヒントを見つけられるような講演をしていただきます。
- ☆ プロジェクト研究発表
当センター所員によるグループ研究の中から、明日から使える授業アイデア等を提案します。
- ☆ 研究員研究展示
当センター2年目研究員の、研究についてのポスター展示です。
- ☆ 各種展示
高校生の研究ポスターや図書資料室の書籍紹介ポスター等を展示します。
- ☆ 青森地方気象台による模擬授業、展示
防災教育の教材の紹介や模擬授業です。



<あおもり教育フェスタに関するお問い合わせ>

Tel: 017-764-1990 Fax: 017-764-1989 田中、大野、長野(青森県総合学校教育センター)

* 発表内容や申込方法等の詳細については、9月に最終案内を各学校・関係機関に送付予定です。
たくさんのご参加を心よりお待ちしております。

